令和6年度はじめてのまちづくり活動応援プログラム（亀岡市支えあいまちづくり協議支援会）交付事業概要一覧

No	申請団体名	申請事業名	実施対象	設定課題(地域課題)	事業内容	目標	総事業費(円)	交付決定額(円)
	代表者名		実施期間					
継続	青のたすき	星空映画館	旧亀岡市青野小学校区（東本梅町、菅前町）住民、亀岡市内親子	2024年3月青野小学校は閉校となり、小学校区である菅前町と東本梅町においては2町の子どもたち、大人たちが一緒に活動をする枠組みがなくなった。それにより、2町に住む人たちが、青野小学校跡地の活用やこの地域の未来について共に話したり考えたりする機会がなくなり、一つの地区として同じ方向を向いて地域振興に取り組むということができなくなっている。	・旧青野小学校のグラウンドで野外映画上映（夜）、地元飲食店を中心とした屋台の出店、紙芝居上演 ・映画館実施に先立ち、地域住民、各自治会、施設を利用している団体にも呼びかけ旧青野小学校に関心や関係を持つ様々な人が集まって学校の整備（草刈り）を行う。	事業による変化・成果目標 ・親子や地域住民の思い出作りと共に、住民が気軽に参加できるような取り組みが継続して行われるということを地域内に周知し、この地域の将来を従来の枠を超えて共に考えていける場として認知される。 実施目標数値（事業の回数や参加者数など） ・事業回数1回 来場者300人 ・運営側の新規参加者目標 子ども5名 大人5名	258,312	150,000
	代表 藤田 理恵		令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日					
新	移住戦隊ハタノジャー	移住促進プロジェクト	亀岡市畑野町	地域の高齢化が進み、町ぐるみのイベントや地域交流の機会が減ってきている。これまで地域イベントに関わってきた方々の高齢化も進んでいるので、活気が薄れつつある。	・耕作放棄地の整備 ・町内案内ツアー＆住民交流イベント ・夏祭り交流イベント＆空家宿泊体験ツアー	事業による変化・成果目標 ・年度内に2世帯の移住・検討者を目指す。 ・畑野町の魅力が広がり、移住検討者・来訪者が増える。 ・事業に新規協力してくれる住民を5名つくる。 実施目標数値（事業の回数や参加者数など） ・移住体験イベント2回 地域外参加者 合計5世帯 ・その他イベント2回 地域外参加者 合計5組 住民5組以上	172,000	131,000
	代表 仲宗根 舞紀		2024/4/1 ～ 2025/3/31					
新	南つつじヶ丘悠遊倶楽部	シニアいきいき塾	亀岡市在住の60歳以上の男性（南つつじヶ丘地区を重点地区とする）	亀岡市の高齢化は急速に進展しており、令和5年の高齢化率は平成30年の28.7%から31.3%へ2.6ポイント増。また、南つつじヶ丘では、平成29年21.2%、令和5年は35.3%とものすごい勢いで進んでいる。そのような中、60～70歳代の中高齢者は、体力的には元来で地域社会の一員として災害時などで力を発揮できる年代であるが、自分の趣味や過去の仕事関係者等とは付き合いがあっても、地域との関わりはほとんどなく、自治会や町内会への参加も徐々に減っている。高齢者が生きがいを持ち地域とも関わり、元気に生活できよう街作りが必要である。	◆講座内容①「男の料理教室」 *対象者：亀岡市在住の60歳以上の男性 *定 員：各回約10名 *実施時期：7月、9月、11月、1月の土曜日（年間4回予定） ◆講座内容②交流会 *対象者：男の料理教室参加者 *実施時期：男の料理教室終了後 *進 行：南つつじヶ丘悠遊倶楽部役員 *内 容：・地域の課題について意見交換 ・社会参加事例やいきいき健康ポイント制度の紹介 ・高齢者の生きがい作りについて意見交換	事業による変化・成果目標 ・3人1組のグループで料理をし、3人が互いに協力することで、グループの輪を作り、お互いが協力しながら料理を完成していくプロセスを大事にする。 地域の課題などを話し合いながら、社会参加の事例やいきいき健康ポイント制度などを紹介する中で、地域活動の重要性について意見交換をする。 実施目標数値（事業の回数や参加者数など） ・男の料理教室及び交流会 4回実施 定員各約10名 計約40名	118,376	78,000
	代表 植村 義弘		令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日					
規	さーきゅらーかめおか	バトンパスボックス循環でつながる	市内子育て世代	地域コミュニティの希薄化が進み、住民同士の交流が減少し、それにより若い世代、転入者、特に子育て世代においては理髪店を持ちながらの生活が余儀なくされ、安心安全に子育てを行うことが困難になりつつある。	・「バトンパスボックス」を設置し、こども服やおもちゃなどを回収し、イベントを通して配布していく。 ・事業活動についてもできるだけ子育て世代に参加してもらい子育て世代の交流の機会を作っていく。	事業による変化・成果目標 ・子育て世代、関係者、地域住民との交流参加者の増加 実施目標数値(事業の回数や参加者数など) ・バトンパスボックス(回収ボックス)の設置5か所 ・イベントの開催(1~2回)参加者200~300人	234,000	134,000
	会長 寺井 正幸		令和6年7月1日 ～ 令和7年3月31日					
新	カメオカレッジ実行委員会	カメオカレッジ	亀岡市民、移住希望者、観光客	新興住宅が増え、ライフスタイルや価値観の違いからこれまでの地域コミュニティと新たな住民のあいだにつながりやコミュニケーションが生まれづらくなっている。また子育てや自然環境を求めて多くの移住・転入者が増える中、「亀岡ならではの」営みをしている商店主、地元事業者と住民が出会う機会が少ない。	・全国に広がる「まちゼミ」や「自由大学」を手本に、お客様、お店や事業者、地域の三方よしを目指し、お店や事業者の方が講師となり、プロならではの専門的な知識や情報、コツ、趣味の楽しみなどを受講者（お客様）に伝える少年カゼミ（市民大学「カメオカレッジ」）を開講する。	事業による変化・成果目標 ・亀岡市内のお店や事業者が新たな取組みに賛同し、主体的に参加する意思を示す。 ・亀岡市民が地元へ愛着を持つ機会、きっかけとしてカメオカレッジに参加する。 実施目標数値（事業の回数や参加者数など） ・参加店舗、事業者数 20 店舗 ・参加者数 100名（1店舗 5名~10名）	250,000	107,000
	代表 滋野 正道		令和6年5月1日 ～ 令和7年3月31日					
計							1,032,688	600,000